

藤沢市長選挙
2016
立候補予定者
アンケート

※並びは左から出馬表明順



鈴木 恒夫(66)



鈴木 とも子(66)



田中 重徳(49)

氏名(年齢)

現新別

政党名

現
無所属

新
無所属

新
無所属

Q1. この4年間の鈴木市政であなたが評価できる施策を1つあげ、その理由を教えてください

4年間取り組んだ施策はすべて藤沢の市政において先送り出来ない重要なもの。そのためこれまでの総合計画に代えてこの4年間で何に取り組むのかを具体的に市政運営の総合指針としてまとめ、施策展開を図った。

住宅リフォーム助成制度の事業。予算額は少なすぎるが、地元業者や市民の要望に応えた事業であり、地域経済への効果もある。

「自然、歴史、文化、建築物などを守り、育て、伝える」という「藤沢市街なみ百年条例」は素晴らしいと思う。こうした「豊かな市民生活を創造する」という取り組みは今後も継続していかなくてはならない。

Q2. この4年間の鈴木市政であなたが評価できない(または課題と思われる)施策を1つあげ、その理由を教えてください

設問1のとおり、実施した施策はどれも必要な施策であり、評価できないものはない。緒に就いたものも含め、概ね実現できた。こうした取り組みの結果が雑誌などのランキングでの高い評価に繋がっていると思う。

保育園の待機児解消対策。待機児が1074人もおり、保育園に入りたくても入れない状況が続いている。保育園の経営に株式会社の参入を認め、園庭がないなど保育環境が低下している。

評価できないという点はない。ただ、2030年への対策(超高齢社会や健康寿命の延伸に関する対策)に積極性が感じられない。私は医薬連携・健康増進などを進め、健やかな市民生活の実現に取り組む。

Q3. あなたが市長に当選した際、最初に取り組む施策を教えてください

少子超高齢社会に対応する市政のデザインを描き、具体的に取り組むを進めるためのロードマップとしての次期総合指針を策定する。施策展開を支える健全財政維持のための行財政改革にも早期に取り組みたい。

保育園の待機児の解消、特養ホームの待機者の解消を計画的に進める。国保料の引き下げ、ごみ袋をすぐに半額に引き下げる。高齢者の無料パス券を実施する。無駄な大型公共事業を縮小する。

健やかな生活を実現するため、①医薬連携体制の構築の手始めに活用しやすい形で地域の医療情報を伝える。②生活習慣病や認知症予防対策としてみんなでできる体操の実践を進める。これを、皆さんと共に取り組む。

Q4. あなたが考える藤沢市政の最も大きな課題とそれに対する施策を教えてください

2025年問題に代表される少子超高齢社会に向けた対策、社会システムを作ること。単に高齢化視点だけでなく、全ての市民が住み慣れた地域で安心して暮らせる事を目指す藤沢型地域包括ケアシステムを実現する。

地方自治と市民の命と財産に大きな影響を及ぼす「戦争法(安保法制)」の廃止を国に強く求める。侵略戦争を肯定するような中学校の教科書の撤回と改善を図る。くらし・福祉優先に税金を使う。

超高齢社会の諸問題。疾病の予防、病気になったときに患者を支える体制、回復後も安心して暮らすための受け入れ体制、その後の病気との付き合い方。これらを支えるため、藤沢市の地域包括ケア体制を整える。

Q5. あなたが市長選挙で有権者に訴える最重要政策を教えてください

公約の統一テーマとして「みんなで創る未来」を掲げた。42万市民が生活する中でそのニーズは多様化、複雑化している。これからのまちづくりは行政だけでなく、市民をはじめみんなの力で創っていくことが重要。

1、なによりも命がだいじ、「戦争法(安保法制)」はキッパリ廃止を。2、憲法の平和主義に基づく教科書を、侵略戦争肯定の教科書の撤回。3、くらし・福祉・子育ていちばんに税金を。

「さいごまでくらしたい街・藤沢」を実現するために「くらし・あんしん・たのしい」をキーワードに、高齢者を始めとする医療の充実と地域連携、セカンドキャリアの提案、藤沢モデルとなる観光資源の創造を行う。

Q6. あなたが藤沢市内で最も好きな場所とその理由を教えてください

旧東海道遊行寺坂途中の一里塚付近、松が土手の両側から覆っており、往時の風情がしのばれる。現在は箱根駅伝の応援ポイント。

稲荷地域の田圃にレンゲの花が咲く所。藤沢市内でわずかに残る田圃のある風景に心が癒される。

辻堂海岸。家族みんなで夕陽を眺めたり、親子で走り回れる場所であり、我が家の愛犬ベラが一番喜ぶ場所でもある。最近、御所見地区から見る夕陽も、家族みんなにとって赤丸急上昇中の場所。

Q7. あなたが人生で最も影響を受けた本を一冊と、その理由を教えてください

「三国志」もの。登場人物の個性や様々なことわざは人生訓になった。やはり劉備玄德の人生観が自然体で肌に合う。

「こぶだらけの勝利」。藤沢市内の企業の労働者が困難な中で粘り強くたたかい、解雇を撤回させた団結の力の記録に感銘を受けた。団結してたたかえば必ず勝利することを学んだ。

『どろんこハリー』。幼い頃に親しみ、我が子にも読み聞かせている。「安心できる場所があれば、思い切り飛び出せる。真直ぐに進めば、必ず答えがでる。自分でい続ければ、誰かきつと気づいてくれる」と学んだ。